

あとがき

次長 重田 誠

各学校および各教育機関におかれましては、日ごろより本センターの諸事業に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、誠にありがとうございます。併せて、本センターの研究推進に当たり御協力、御指導いただきました研究推進校、データ分析ワーキンググループ協力校、山梨大学、山梨県教育庁の関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和4年の中教審答申の中に「教師の学びの姿も、子供たちに学びの相似形である」という言葉があります。先日、ある会で「教師の学び」と「子供の学び」は、どう同じでどう違うのか、というような問いを投げかけられ、それについて隣の席の方と対話しました。合同ではなく相似。教師の学びが「主体的・対話的で深い学び」になれば、子供の学びが変わるのか。私たちがよく使っている言葉について、改めて考えるきっかけになりました。ほかにも教育に関する様々なキーワードがあり、様々な場面で使っています。私たちそれぞれの経験やそれに紐づく思いや価値観によって、それらの言葉の受け止め方は違うと思います。本センターでよく使っているキーワードや各学校の校内研で使っているキーワードについて、改めて問いを立て、対話してみるのもよいのではないのでしょうか。

さて、本センターでは、この研究紀要に収載した取組のように「校内研を充実させたい」という先生方の思いやそれに向けた取組を支援するための実践的な研究や、相談支援、情報教育の専門性を生かした学校支援のための実践研究を行っています。2月19日にオンラインで開催いたしました研究大会では、『新しい時代の学校教育の実現に向けた総合的な支援の充実』—求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導、校内研究の在り方—をテーマに、本年度の研究について、参加された多くの先生方にお伝えするとともに、充実したグループセッションを行うことができました。また、東京学芸大学大学院教授 西村圭一先生をお迎えし、「探究文化を芽吹かせる学校づくり—これからの『探究』を考える—」をテーマに開催した特別講演会は、「探究」において子供たちの自律的協働を目指すための教師や学校の在り方について、参加者それぞれが気づきを得て、次の一歩について考える機会となりました。本大会の開催に御尽力いただいたすべての皆様に、改めて御礼申し上げます。

本紀要は、各教育機関へのCD配付とともに総合教育センターホームページに掲載されます。収載された研究報告が、各学校等における教育活動や校内研究、また研修の充実のための一助になれば幸いです。

今後も本センターに対する皆様の御支援と御協力をお願い申し上げ、あとがきとさせていただきます。